

平成30年8月12日

松阪市議会議長
中島清晴様

無所属の会・みらい 田中正浩
西口真理

議員研修会参加報告

平成30年8月2日(木)、3日(金)に東京都で開催された研修会に参加してきましたのでご報告いたします。

- 日時 平成30年8月2日(木) 13:00~19:30
8月3日(金) 9:15~15:00
- 会場 都立多摩図書館 セミナールーム (東京都国分寺市)
- 研修会の名称 予算・決算、一般会計って何!? ~1から学ぶ自治体財政~
- 主催 NPO 法人 多摩住民自治研究所
- 参加者 全国の自治体議員約40名

【プログラム&内容】

- 2日(木) 講師:初村尤而氏
 - ・第1講 財政の役割と機能、予算・決算のしくみ
 - ・第2講 歳出予算のしくみ
 - ・第3講 歳入予算のしくみ
 - ・第4講 地方公営企業とその他

予算・決算制度は財政民主主義の原則の一つであり、総計予算主義の原則、単一予算主義の原則、会計年度独立の原則、予算限定の原則、予算事前議決の原則、予算公開の原則という一定の原則にそって作られる。この予算の「編成→議決→執行→決算」という予算循環の中で、議会による議決過程の存在が重要。一方で、評価、チェック過程であるべき決算認定が疎かになっているのではないか。

日本の自治体財政の現状について。国と自治体の公共サービスの役割分担、歳入内訳の推移(地方税、地方交付税、国庫支出金など)、地方交付税の決められ方、最近の歳出内訳の動向(民生費の急増、公共事業の減少と「回復」、人件費の減少による影響など)について。

●3日(金) 講師:大和田一紘氏

・第5講 財政情報の大切さ

各資料の入手方法や時期について。

・第6講 どんな財政情報をどのように分析するか

決算カードの開示の時期、類似団体比較カード・財政状況資料集の登場、市町村分地方交付税算定台帳・地方財政健全化法の総務省フォーマットの扱い、地方財政状況調査表(決算統計)について、など。

・第7講 財政用語に慣れるには、五感を駆使しよう

歳入の体系、目的別歳出と性質別歳出について。

松阪市の「決算カード」を持参して、様々な数字の見方を学び、実際に電卓で計算して各自で決算分析データ表に書き込みを行った。



【所感】

財政は自治体政治の基礎であり、その仕組みを理解しないと、市の予算、決算についてもしっかりした議論が出来ない。9月の決算議会に向けて、まだまだ勉強不足の自治体財政についての知識を深め、着眼のポイントを学ぼうと、本研修会に参加した。

講師の話から、年度毎の「編成→議決→執行→決算」の循環性の中で、決算の重要性、つまり、前年度の決算をいかに予算編成、決定に生かしていけるか、それこそが議会の重要な役割の一つである事を確認した。そのためにも、市全体の財政状況を評価出来るスキルを身につけなければならない。

自治体の財政状況の評価としては、財政力指数、実質公債比率、経常収支比率、将来負担比率、の4つの指標がある。それらの意味や計算方法は分かっても、実際の数字をどう評価すれば良いのか。

松阪市ではここ数年市債残高が増えている。市税や地方交付税が減少する中、大型事業が増え、合併特例債や臨時財政対策債に頼る運営が続いている。「有利な債である」との認識で頼り続けて良いのか。借金は借金であるとの話もあった。国の財政状況の不確実性、将来世代への負担を考えると、より堅実な財政運営が求められるのではないかと再確認した。

今回の研修会は、テーマの範囲が広く「広く浅く」の概論で、消化不足、分かりにくい部分も多々あった。また、「公会計制度導入」の視点は入っていなかったが、松阪市は、他市と比べて公共施設の老朽化率(有形固定資産償却率)が大きい。この点を将来の財政運営にどう配慮すればいいのか。来週名古屋で開催されるセミナー「決算審査が自治体を変える～財務データを使いこなそう～」で、さらに認識を深めたいと思う。

自治体財政については、用語も数字の扱いも難しく、まだまだ勉強不足である。今後も継続してしっかり学んでいきたい。